



大学を出て広がる
進路の可能性
を調査

卒業後リサーチ

薬学部系統

卒業生の活躍!

岐阜薬科大学

薬学部 厚生薬学科 卒
(現・薬学科)

小野薬品工業株式会社

ニューロロジー研究センター

田中 彦孝さん

創薬研究員

(たなか ひろたか)愛知県立半田高校卒業。2008年3月、岐阜薬科大学薬学部厚生薬学科卒業。2013年3月、岐阜薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士後期課程修了。中学時代、幼い頃

に自分が救急搬送されて医師や薬の力で命を救われた経験があることを知り、医療系の仕事を意識するようになった。なかでも病気を治す身近な存在である医薬品に興味を持ち、歴史のある岐阜

薬科大学へ進学。在学中は、薬効解析学研究室で現在学長を務める原英彰教授の指導を受け、筋萎縮性側索硬化症の病態解明や症状を緩和させる薬剤候補の探索などの研究に取り組んだ。

常に自分が納得するまで考えて

この仕事の魅力!

仮説を立て、実験し、データを読み解く。

その繰り返しが新薬と人びとの健康につながる

薬の種になる化合物を探し 特長や有効性を実験・検証

中枢神経系疾患の新薬開発を目指すニューロロジー研究センターで、薬の種になる化合物の探索に取り組んでいます。この業務は創薬の第一段階に当たり、膨大な化合物を集めたライブラリーのなかから、新薬候補となる可能性がある化合物を絞り込み、標的に対して狙い通りに作用するかなどを実験で検証していきます。新しいものを生み出す発想力と整合性のバランスを取りながら、日々実験や検証を進めているところです。

大学では、誰かの指示や真似ではなく、自らの考えで研究を進める大切さと面白さを学びました。今も常に自分で考える姿勢を持ち続け、目的達成に必要な実験の組み合わせをしっかりと考え、無駄なくシンプルに作業を進める

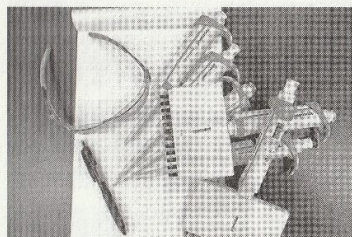
ある日のスケジュール

時間	内容
8:45~	出勤。メールチェック、その日の予定の確認
9:00~	必要な試薬の調製などの下準備をした後、培養細胞を使って化合物の有効性を評価する実験を行う
10:00~	会議、データディスカッション
12:00~	昼休み
12:45~	午前中の実験を引き続き行う
15:30~	実験終了。後片付け
16:00~	実験のデータ整理、翌日の準備や予定確認
17:20	退勤

ことを心がけています。実験データを発信するときにも、相手が求める情報を想像しながら伝え方を考え、自分の言葉で表現するよう努めています。

また、学生時代の病院実習では調剤ミスを防ぐ徹底した管理を目の当たりにし、薬の安全性への意識を高めました。自ら考えて研究することを繰り返していくことで、安全な薬を創製し、人びとの健康に貢献できればと願っています。

私が所属する研究センターは、対症療法だけでなく根治療法につながる医薬品の開発を目標に掲げています。その目標に向かい、創薬の研究はもちろん、さらに本質的な「人間はなぜ病気になるのか」という問いも追究していくことができると思っています。



ゴッセルやマイクロピペットなどの実験道具